

ファッション
ashion

カ
RYOKU

漫画で学ぶ
ファッション

MANGA FASHION

TOKYO
BRAND PICK UP

ファッションの裏技拝見

kotohayokozawa

横澤琴葉さん

August 2022 Vol.56



注目クリエイターによる
撮り下ろしビジュアル

N EW

HOT CREATOR

Photography : Yam Daria [@yam_darya](#)

Set designer : Yuta Shimoda [@yuta.origami](#)

Model : Alexander Fujita [@alexander_fujita](#)

Direction / Styling / Hair & Make-up :
Larprojpaiboon Phoovadej ([ablanpage](#)) [@ablanpage_official](#)

FILE:019

ablanpage. デザイナー

LARPROJPAIBOON PHOOVADEJ

LARPROJPAIBOON PHOOVADEJ(ラロパイブーン・フワデト) 1996年タイ・バンコク生まれ。ファッションデザイナーを志し日本に留学。杉野学園ドレスメーカー学院在学中に「このがっこう」を受講し、2021年に文化ファッション大学院大学を卒業。第56回全国ファッションデザインコンテスト東京都知事賞、第93回装苑賞佳作2位。タイで生まれ育った文化と、日本で学んだ服作りをベースに作り出す美しいシルエットが特徴。



飛行機墜落事故

最後の生き残りである私は
意識の朦朧とする中
他に生存者がいないかと
瓦礫の中を探り続ける

微かな可能性を
最後の希望の光を求める
誰でも良い
死ぬ前にもう一度
人の温もりを感じたい
しかしそこにあるのは大きな絶望感だけ
私は全てを諦め
トボトボと歩き去っていく

一步一步
口を開けて待っている死へと確実に



“一つひとつに個性があって人間味のある服を提案したい”



ホテルのプールサイドを会場に開催した5月のランウェイショーでは、新作を含むアーカイブコレクションを披露した。1.大人気のtodoシリーズは「作る時に面倒な工程が一切なくて、動きやすい健康的」と横澤さん。2.今夏発売された「コンパス」とのコラボスニーカーはボーリングシューズをイメージ。何気ない日常風景がプリントされたカートンも手放せない。3.ジーンズの革パッチをモチーフにしたブランドタグにはキッチンイラスト仕掛け。

■若者へメッセージを。
A-1やメタバースなど、どんなに便利な技術が発展しても、人と会うこと、その人のサイズ感や服を着て話している姿、放たれる振る舞いや香りは一生あるもの。自分が感じた体験や記憶を大事にしてほしい、その感性を磨いて鍛えることが重要だと思います。自分なりの美意識をしっかり持っていれば、どんな仕事でもこなせます。

■今後の目標は？
ウェアだけでなく、シューズやバッグ、ジュエリーなど、ブランドのポリリウムをもっと広げていきたいです。海外は、大好きなアジア圏にもっとアプローチしていきたい。以前はよく出張に行っていたのですが、特に中国語圏の人について積極的に何でも言ってくれるのでやりやすいです。ワイワイガヤガヤしたところが合うんですよね。

■服作りへのこだわりは？
行動の制限がある服にしたくないので、扱いやすく着やすい服が多いです。むしろ着ること、走ったり高い塀を乗り越えたり、いつもより大胆になれるよう手助けしたい。生地は色落ちしても洗っても風合いとなり魅力となるもの、カットしてもほつれにくい素材、シワの出方やほつれ方がデザインと結びつく素材を選びます。持っている服と組み合わせること、着倒して自分の一部になることが服の醍醐味だと思うので、古着になってもいいなと思える服でありたいです。

■ブランドのコンセプトは？
私自身がファッションに囚われ過ぎていた時期があったので「もっと肩の力を抜いていよ」とか「そんなに気を使わなくてもありのままの魅力のだよ」と言ってもらえるような、振る舞いやスタイルを提案しています。左右非対称のデザインだったり、意味のないディテールだったり、正確な形や答えがないことへの価値観をブランドを通して共有したい。一つずつ個性差があって機械的でない服、システムチックになりすぎないところに人間味が出てくると思います。

■ブランドのコンセプトは？
私自身がファッションに囚われ過ぎていた時期があったので「もっと肩の力を抜いていよ」とか「そんなに気を使わなくてもありのままの魅力のだよ」と言ってもらえるような、振る舞いやスタイルを提案しています。左右非対称のデザインだったり、意味のないディテールだったり、正確な形や答えがないことへの価値観をブランドを通して共有したい。一つずつ個性差があって機械的でない服、システムチックになりすぎないところに人間味が出てくると思います。

ファッションの裏技拝見

TOKYO BRAND PICK UP

Vol.56

ブリーツ地に波打つメロー加工を施した「todo」シリーズをはじめ、アシンメトリーなデザインや曲線的なカットワークなど数々のアイコン的なアイテムを提案し若者に大人気のレディースブランド「kotohayokozawa (コトハヨコザワ)」。

デザイナーの横澤琴葉さんに会うためアトリエを訪ねた。

Interview: Masahiro Kubo, Sakura Tsuchiya Photo: Sakura Tsuchiya



コトハヨコザワ

kotohayokozawa

デザイナー 横澤 琴葉さん

1991年名古屋市生まれ。名古屋市立桜台高校卒業。エスモード東京校卒業。2015年より自身のブランド「kotohayokozawa」をスタート。2020年「第38回毎日ファッション大賞新人賞・資生堂奨励賞」受賞。

<https://kotohayokozawa.com> @kotohayokozawa

■ファッションに興味を持ったきっかけは？
小さい時から本当に服が好きでした。子供の頃って表現力に限界があったので、幼いながらも着ることをコミュニケーションの一つと捉えていたのかもしれない。「今日はこういう気分だよ」とか「私はこんなキャラクターだよ」とか、言葉の代わりに着て意思表示することに助けられていた気がします。小学生の頃は「エンジェルブルー」が流行っていて、たくさん持っている子もいたけど、私は減多に買ってもらえなかったの、シヨッピングモールや雑誌、カタログを見て、似ている服をもっと可愛くおねだりしやすい服を探そうと日課でした。ブランドの服を着るより、いろんな服を工夫して着るのが楽しかった。今の私も同じです。

■ブランドを立ち上げるまでの道のりは？
ファッション科のある高校へ進学し、着物からドレスまで服作りをひと通り学びました。卒業後は上京してファッションの専門学校へ。「かっこいいものを作って一番になりたい」と突っ走っていましたが、専門3年生の時に講師で山縣良和さんと坂部三樹郎さんが来て、これまでやってきたファッションやデザインの考え方とまるで違う方向からアドバイスを受けました。それは「自分のありのままを服に落とし込む」という、やったことのない表現でした。意味が分かってでも作る服に反映させることができなくて大苦戦しましたが、どんな面白くなりませんでした。就活の時期、ブランドを立ち上げることも考えましたが、新卒枠で入れるのは今だけだからと、唯一入りたかった会社に応募してデザインチームに入社しました。働きながら「こののがっこう」へ通い、いろんなイベントやファッションショーに参加していくうち、やっぱり企業ではできないこと、言葉や数字で表すことができない「感覚」に重きを置いて仕事をしたかったと気づき、独立するため退社。1年かけて準備をして、2015年に「コトハヨコザワ」を立ち上げました。この時お願いしたブリーツ工場さんとは今でもお付き合いしています。

ファッションの裏技拝見

FEATURING A KEY PERSON

Vol.24

ファッション業界のさまざまな職種で活躍するキーパーソンを紹介する連載Vol.24は、セレクトショップの老舗、「シブス」で生産管理部部長を務める矢澤崇さんにインタビュー。矢澤さんに生産管理の仕事の魅力を聞くため、銀座にあるプレスルームを訪ねた。

Interview : Masahiro Kubo Photo : Sakura Tsuchiya



生産管理はファッションの変化に柔軟に合わせて長く勤められる職種です

SHIPS 生産管理部 部長 / 矢澤 崇さん

【 PROFILE 】

矢澤 崇 Takashi Yazawa 神奈川県出身。レディスアパレル企業にてキャリアをスタートし、生産管理業務を経験する。その後、メンズスーツ工場への転職を経て、当時取引先でもあったシブスに2010年入社。メンズ、ウィメンズの生産管理の現場を陣頭指揮しながら、22年3月から生産管理部の部長として従事する。

@ ships_official

■生産管理では、具体的にどんな仕事をしていますか？

弊社はセレクトショップですが、オリジナル商品を製造、販売もしているため、MDが立てた販売計画をもとに、商品の販売時期に合わせて、素材調達から、必要な生産量に対しての納品までを管理しています。原価率やコスト管理は利益に直結しますし、実際の企画からデザイン決定、販売までの一連の流れを管理するためのマネジメント能力や、社内外への細かな対応が必要になる業務だと思います。

■いろいろな気遣いが必要な職種ですね。

マルチタスクでいろいろなことを同時に進めることも多いです。例えば、今期の納品と同時並行で、来期の素材発注はどうしようかなど。商品によって進行状況がかなり違うこともありますし、納期が遅れるなどのトラブルもつきものなので、それに対する対応力が大きく求められると思います。昨今はコロナの状況で海外の生産背景がロックダウンしてしまうなどもありましたし、その分、日本で商品が作れたらベストですが、国内生産が縮小している中で急なお願いができるわけでも

なく、納期やコストの問題もつきまとうので、そのコントロールにはすごく苦労しました。

■仕事をする上で心がけていることは？

工場とのやり取りでは厳しく言わなければいけない時もありますが、取引先、生地屋、付属屋、工場があつて商品が作られているので、決して横柄にならず、自分たちが仕事を振っているというスタンスにはならないでほしいと、常に現場の人間にも伝えていきます。僕は20年ぐらい前、ものづくりをもっと自分で学びたくて、メンズのスーツ工場に転職したことがあります。その時に工場パターンや縫製などいろいろ教えてもらって仕事を受ける立場だったので、人として、この人と仕事したいという感覚は忘れずにやっています。やっぱり作っている人の顔が見えることや、どういう背景で作っているのかはすごく大事にしたい。国内も海外の縫製工場も、コストだけで決めるだけで、できるだけ足を運ぶように心がけています。数年前には代表の原（裕章）が副社長になったタイミングで国内の工場を全部見たいと、メイン工場をほぼ一緒に回る出張もさせてもらいました。ものづくりに対する想いがある工場の人たちもすごく喜んでくれますし、今後に向けて話せるのは大事なことだと感じます。

■矢澤さんがやりがいを感じることは？

国内生産に限らず海外生産にも関わり、ASEANの開拓も旗を振ってやらせてもらいましたし、ずっとやりがいは感じています。近年ではシブスのルーツでもあるアメリカ生産がやりたくて、自分で企画しました。アメリカ



生産のオリジナルをやっているところはなかなかないので、それができることはシブスの強みですね。さらに「Southwick（サウスウィック）」という1929年に設立したアメリカのブランドをシブスで商標を取り、2022年春夏スタートで店頭に入荷しました。アメリカの歴史あるブランドをシブスが復活させて携わるというのはなかなか他ではできないことなので、部門長としてすごくやりがいを感じていますね。これを今後きちんと軌道に乗せて、次の世代に引き継いで会社として成功させるのがひとつの目標でもあります。

■若い読者にメッセージを。

洋服が好きであれば、たぶんどんな関わり方をしてもすごく楽しいと思うので、まずそこが大前提にあること。生産管理は失敗やチャレンジを重ねることによってどんどん自分のキャリアが成長するし、ファッションの姿

化に柔軟に合わせて長く勤められる職種じゃないかなって思いますね。洋服を作る上で一番ベースとなるところを学べるので、興味を持って飛び込んでみると新しい世界が開けるとおもいます。



漫画で学ぶファッション

人生を変えた漫画に出会ったことはあるか。

世の中にはドラマや映画、漫画に影響を受けて部活を始めた人もいれば、将来なりたい職業を決めた人もいるだろう。

今号の『ファッション力』は、ファッション×漫画特集。

ファッションを題材にした作品紹介や漫画家直撃インタビュー、漫画に対する学生意識調査をレポートする。

Interview : Masahiro Kubo, Text : Utako Amino Photo : Sakura Tsuchiya

＼ 意外とある！ ／

ファッションを題材にした漫画を一挙紹介。

📖 ジェリービーンズ

著：安野モヨコ 発行所：講談社

ファッション雑誌『CUTiE』で連載された、デザイナーを目指す田舎暮らしの少女が夢に向かって成長していく物語。近年着物ブランドも展開している安野モヨコのセンスがちりばめられた、読むとパワーがもらえる作品。

📖 デザイナー

著：一条ゆかり 発行所：集英社

少女漫画界の大御所、一条ゆかりもファッション漫画を描いている。人気モデルだった主人公が交通事故にあい、デザイナーを目指す物語。憎みやプライド、さまざまな犠牲をはらって主人公がのし上がっていく内容濃厚な一作だ。現在デジタル版で購入可。

©一条ゆかり/集英社

📖 あたらしいひふ

著：高野雀 発行所：祥伝社

黒い服ばかり選んでしまう女、モードを着こなす女、コンサバな服しか着られない女、盛ることで武装するギャル系女・・・同じ社内にいる、見た目も価値観もバラバラな女4人を群像劇で描いた作品。一巻完結で読みやすい。

📖 Real Clothes

著：横村さとる 発行所：集英社

百貨店勤務で布団売り場担当だった主人公が、婦人服売り場への人事異動をきっかけにファッションに目覚めていき、恋に仕事に頑張る姿を描く。ファッションアドバイザーの魅力ややりがいを感じられる作品。

📖 服福人々

著：坂本拓 発行所：集英社

「服を買うこと」が趣味の32歳サラリーマンが、元ファッションデザイナーとの出会いをきっかけに服との向き合い方、自分との向き合い方が変わっていく。メンズファッションを取り扱っていて、読めば買い物楽しくなりそう。

©坂本拓/集英社

📖 傾国の仕立て屋 ローズ・ベルタン

著：磯見仁月 発行所：新潮社

マリーアントワネットのドレスを仕立てていたお針子ローズ・ベルタンは実在した人物。現代のモード界にも大きな影響を与えた彼女の一生と、ロココ時代の歴史やファッションが学べる。月刊コミックパンチで連載中。

📖 Paradise Kiss

著：矢沢あい 発行所：祥伝社

ファッション雑誌『ジッパー』で連載されたご近所物語の続編。有名進学校に通い受験勉強に追われる主人公が、服飾学生から学園祭のショーモデルに誘われたことをきっかけに、新しい出会いを通じて人生観が変わっていく。

📖 海月姫

著：東村アキコ 発行所：講談社

人気漫画家、東村アキコ作のファッション漫画。お洒落に縁のなかったオタク女子が、女装男子との出会いをきっかけにファッションブランドを立ち上げるラブコメディで、映画・ドラマ・アニメ化され大ヒットした。

📖 ご近所物語

著：矢沢あい 発行所：集英社

ファッションデザイナーを目指す主人公と、同じマンションに住む幼馴染みが服飾専門学校を舞台に繰り広げるラブストーリー。主人公はもちろん、バンクやロリータなどクラスメイトのファッションも見どころ。

©矢沢漫画制作所/集英社

『アントレース』(集英社)の原作者、
かっぴーさんにインタビュー



nora_ito

今は物語がない服が多いなって思います

かっぴー / Kappy

1985年神奈川県出身。株式会社なつやすみ代表。武蔵野美術大学を卒業後、大手広告代理店のアートディレクターやWEB制作会社のプランナーを経て、2016年に漫画家として独立。『左ききのエレン』、『15分の少女たち-アイドルのつくりかた-』連載中。

◆『着たい服がある』は、ロリータファッションが好きで主人公ママがさまざまな出会いを通じて成長していく物語ですが、ファッションを題材にした漫画を描こうと思ったきっかけは？

もともとデビュー作で、「クロムハーツ」の財布を買うために全てを売り払う男の話を描きました。その時、服についていろいろ調べたのですが、僕は作り方や素材に関してあまり興味がないんだと気付いた。僕は買っている服が好きなんですよね。ファッション誌でモデルの着ている服が欲しいと思っただけなんでも手に入れたらとか、1点物でその時買えなかったアイテムも、諦めずに数年越しで手に入れるとか、そういった執着はすごくあって、それを漫画にしようと思いました。

◆作品にロリータファッションを選んだ理由は？

連載前は作品を編集部を持ち込みつつ、同時にツイッターにもあげていたんですが、初めてバズったのが『着たい服がある』のプロトタイプでした。ツイッターにあげた時に何が目立つかなと考えた時、ロリータ服だったら自分も描いていて楽しいだろうなと思ったんです。

◆『ロリータ系のモデルさんなどに会って感じたことはありませんか？』

自分の世界観を大切にしているし、なんとなく服が好きで好きな人とはちよっと違う奥深さを感じました。でも同時に感じたことが、「結構普通の人なんだ」ということ。ある時、「ロリータを着ている子ってあんなことを考えていたんだね」と、漫画を読んでもくれた年配の編集者さんにできました。

◆『アントレース』は、服をつくるのが好きなユウナがボタンナーを目指して服飾系学校に入学し、出会った仲間とともにブランドを立ち上げ学内最大のランウェイショーに挑む青春物語。この作品を描こうと思ったきっかけは？

クリエイターの話を書きたいというのが前提にあって、クリエイター同士でも横のつながりが強くて、誰にでも取っつきやすい職種ってないかなと考えた時に、アパレルが頭に浮かびました。さらに学生だったらいろいろな物語が描けるんじゃないかなと思いました。「裏方」に焦点を当てたかったので、主人公をデザイナーではなくボタンナーにしたのがこだわりです。もともと僕のおじいちゃんが呉服屋で、愚直に洋服作りをしている職人が身近にいたこともきっかけのひとつでした。

◆作品には洋裁学校やファッションデザイナーが登場人物として出てきますが、どうやってリサーチしましたか？

学校は東京モード学園と文化服装学院、あとは行っていないんですけどアントワープ(王立芸術アカデミー)も調べたりして、ファッションの学校がどんなことをやっているのかひと通り見ました。デザイナーに関しては自分が美大出身なのでなんとなくわかることもあったので、ボタンナーの方に何かお会いして仕事を見せてもらいました。

◆ボタンナーを取材して気づいたことはありますか？

ボタンナーから独立してブランドを立ち上げた人はもちろんいると思うんですけど、どう考えてもデザイナーと分ける必要ない仕事って勝手に思っちゃってますよね。あれだけボタンが引けてそのイメージがあるんだったら、自分でコンセプトを考えればいいのと思うし、そこがちょっと未だに解決しない。だから漫画でも、最初の読み切りの段階ではデザイナーが一人じゃ作れない理由をつけたくて、デザイナーがめちゃくちゃ絵が下手なせいでスタッフを動かさなくて、唯一自分の言っていることを理解してくれるボタンナーの女の子とタッグを組むというストーリーにしました。不思議だったからこそ逆に面白にしたいなと。



『アントレース』①~③巻完結 原作：かっぴー 漫画：春瀬 幸

『着たい服がある』(講談社)の作者、
常喜寝太郎さんにインタビュー



netarou.t

「これは私の話だ」と心に残る作品を描きたい

常喜寝太郎 / Netaro Tsuneki

滋賀県出身。第68回ちばてつや賞ヤング部門で準優秀新人賞を受賞。ロリータファッションを題材にした作品『着たい服がある』(全5巻)で連載デビュー。『不良がネコに助けられてく話』(全3巻)、『踊れ獅子堂買』連載中。

◆『着たい服がある』は、ロリータファッションが好きで主人公ママがさまざまな出会いを通じて成長していく物語ですが、ファッションを題材にした漫画を描こうと思ったきっかけは？

もともとデビュー作で、「クロムハーツ」の財布を買うために全てを売り払う男の話を描きました。その時、服についていろいろ調べたのですが、僕は作り方や素材に関してあまり興味がないんだと気付いた。僕は買っている服が好きなんですよね。ファッション誌でモデルの着ている服が欲しいと思っただけなんでも手に入れたらとか、1点物でその時買えなかったアイテムも、諦めずに数年越しで手に入れるとか、そういった執着はすごくあって、それを漫画にしようと思いました。

◆作品にロリータファッションを選んだ理由は？

連載前は作品を編集部を持ち込みつつ、同時にツイッターにもあげていたんですが、初めてバズったのが『着たい服がある』のプロトタイプでした。ツイッターにあげた時に何が目立つかなと考えた時、ロリータ服だったら自分も描いていて楽しいだろうなと思ったんです。

◆『ロリータ系のモデルさんなどに会って感じたことはありませんか？』

自分の世界観を大切にしているし、なんとなく服が好きで好きな人とはちよっと違う奥深さを感じました。でも同時に感じたことが、「結構普通の人なんだ」ということ。ある時、「ロリータを着ている子ってあんなことを考えていたんだね」と、漫画を読んでもくれた年配の編集者さんにできました。

◆『着たい服がある』は、ママと娘の対立から始まり、ママの過去を掘り起こしていく物語。この作品を描こうと思ったきっかけは？

小澤の過去は、僕の過去をそのまま描きました。僕の場合は理想の自分になれるのが悔しくて、どうやって人気者になるのか探していたのかもしれない。でも、「服を着ていない自分は自分じゃないの？」と2巻で書いたセリフが自分にも刺さって、小澤に関しては描きながら、僕も一緒に成長していった感じです。不安なことを描いてあげて、「これは私の話だ」と心に残る作品になったら良いです。

◆若い読者にメッセージを。

売れるかどうかは別として、本気でやっている人で、やりたい職業に就いていない人ってあまりいない。いかにそこから自分の好きを突き詰められるか。1日1分でもいいから今日何が良かったかと思ったかをメモするだけで、散り積もって自分の好きなものが何か、その理由がどんどん明確になって外さなくなります。あとは、ロリータファッションも以前のように原宿通りを歩いている人は減りましたが、自分の好きな人たちがだけ繋がっていいじゃないやと思うかもしれないけど、自分とは違う世界にも飛び出していくと、やりたいことも広がっていくと思います。

◆作品序盤やエピソードに出てくる「いい服には物語がある」というセリフが印象的です。

呉服屋だったおじいちゃんが亡くなった時、親族がみんなおじいちゃんの仕立てた服を葬式に着ていたんです。それが凄く印象に残っていて。本来洋服ってそうあるべきというか、今は物語がない服が多いなって思います。先輩からもらった服を大事に着るでも良いし、なんでもいんですけど、手に入れるときに何かしらのエピソードがないと、ファッションとは言えないと思います。

◆ご自身もファッションは好きですか？スニーカー好きというのをSNSで拝見しました。

スニーカーは大好きです。家には多分80足くらいあるんですけど、100足に近づくと後輩にあげたりして、なるべく100足を超えないようになっています。でも最近ブームになってしまったので、それが嫌です。スニーカーは履くものだと思っているので、どんなにプレ値がつくものでも、すぐ履く予定が無かったとしてもタグは切るし、箱も捨てます。

◆若い読者にメッセージを。

人生で一時でも頑張ったことがある人はやっぱり何かしら得すると思う。時代じゃないよとか、熱血スポコンとかはやらないよって言う人もいますが、やっぱり頑張るとしたらあとで楽になる。僕も30代になってやっと頑張れば頑張るほど結果が出るっていう状態になったので、みんな頑張るといいと思います。



『着たい服がある』①~⑤巻完結 著：常喜寝太郎 発行所：講談社



こんにちは！ シトウレイです

東京ストリートファッションをSNSを通じ世界中に発信するパイオニア、シトウレイさんが世界のストリートをキャッチ



ロン毛、ひげ、 雰囲気ワイルド系男子に注目

シトウレイです、こんにちは！盛夏真っただ中、みなさまいかがお過ごしですか？私とは言えば東京のストリートスナップをコツコツ地道に続けております。灼熱の太陽の中のスナップは正直大変！とはいえ街の新しい流れを見つけた時の感動はひとしお。今回は街で見つけた新しい潮流をお届けしたいと思います。

「この暑中、あつらしい男子が増えた！」
これが私が街を見ていて感じたこと。ここ最近の男子の流れといえど一言でいえば「ツルッサラッとシンプルスタイル」。洋服もシンプル、顔もツルっとヘアスタイルもきれいにそろえたテイストがメインだったので、す、が、お酒落猛者たちはもうそれには飽きて、新しいスタイルを楽しみ始めています。それが「あつらしいスタイル」！ちょっと言い方があまりなので訂正します。「あじのあるニュアンス系ワイルド男子」とでも言いましょうか。

特徴はまず顔周りから始めましょう。ヘアスタイルはとりあえず①ロン毛。ツルっとサラッととは真反対のワイルドさ、退廃的なムードを感じるロン毛にファッションリーダーはスライドしています。そして顔には②無精ひげ。剃らず、整えず、不精にまかせて伸びた風なひげ



(ちなみにポイントは「伸びた風」。不精に見せかけ実は入念なバランス感でワイルド感を演出するひげに整えているのです) から感じるワイルドさは男の色気を想起します。ロン毛、ひげ。その毛量の多さ故にあつらしさを感じるのでしょう。

そして着ている服はといえば古着が多い。清潔感のあるきれいな新品！というよりも風合いのある古着や、着続けて味が出てきたアイテムなど深みのあるアイテムが多いです。

実は遡ること2000年代。ひげ、ロン毛、やれた古着に身を包んだ「ワイルド系男子」がストリートで流行ったんです。ということはある意味これもY2Kファッション…！

2000年代ワイルド系男子と今の違いはディテール。今のワイルド系男子はちょっとクスッと笑ってしまうようなディテールを取り入れていることがポイントです。ディズニーのTシャツ、ちょっとダサめな白ソックス、ちょっとフェイク品っぽいフェラーリモチーフのキャップなどでハズしをいれて、ワイルドながらも親しみやすさを感じさせてくれます。ネオワイルド系のこの先の動向、引き続きチェックしようと思います。それでは今日はこの辺で。また次回お会いしましょう！

シトウレイYouTubeチャンネル開設 #シトウレイ #reishito.

©Real Shito-STYLE from TOKYO (http://reishito.com/)

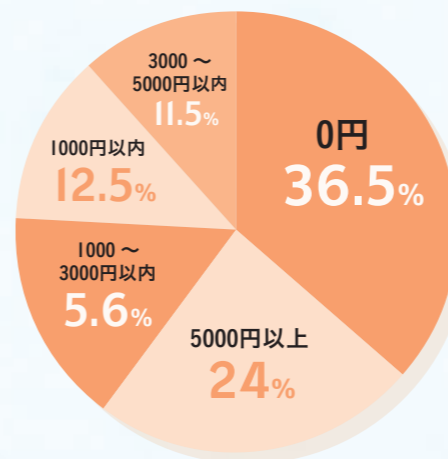
MANGA × FASHION

杉野学園ドレスメーカー学院・杉野服飾大学・和洋女子大学の

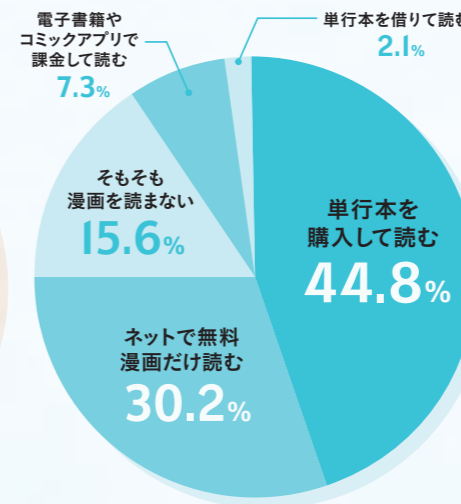
学生(約)100人に聞きました！



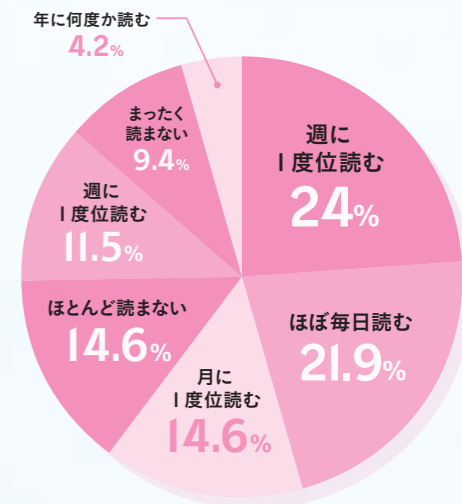
Q.3
1年間で、漫画にどのくらいお金を使いますか？



Q.2
漫画をどうやって読みますか？



Q.1
漫画をどのくらい読みますか？



Q.5
Q.4の答え以外で、ファッションの参考になる、もしくはお酒落だと思ふ漫画は？

※ファッションを題材にしていない漫画を含む

NANA (6票) / 黒執事 (2票) / 宝石の国 (2票) / ローゼンメイデン (2票) / 冒険者の服、作ります！～異世界ではじめる デザイナー生活～ / しゅごキャラ / GALS! / 明日、私は誰かのカノジョ / きらめきランウェイ! / テラモリ / ていくるコレクション / とんがり帽子のアトリエ / 校閲ガール / 初めて恋をした日に読む話 / 地縛少年花子くん / ヘルゼブ嬢のお気に召すまま。 / 下妻物語 / 踊るリスポーン / ssb—超青春師弟s— / 刀剣乱舞 / まめコーデ / マダムが教えてくれたこと / 東京リベンジャーズ / 百貨店ワルツ

Q.4
ファッションを題材にした、読んだことのある漫画ベスト10

- 1位 海月姫 (32票)
- 2位 ランウェイで笑って (22票)
- 3位 パラダイス・キス (14票)
- 4位 服を着るならこんなふうにな (12票)
- 5位 ご近所物語 (11票)
- 6位 着たい服がある (7票)
- 7位 その着せ替え人形は恋をする (6票)
- 8位 傾国の仕立て屋 ローゼ・ベルタン (5票)
- 9位 着物ちゃんとロリータちゃん (4票)
- 10位 ゲキカワデビル (3票)



「ご近所物語」×「ジュエティ」コラボに注目！

背中に「ご近所物語」と刺繍されたトップスを着た学生を発見！前ページでも紹介した矢沢あい原作の服飾専門学校を舞台とした青春ラブストーリーのタイトルだが、ファッションブランド「ジュエティ」とのコラボ商品だった。発行から20年以上の時を経てもお若者に支持される矢沢あい作品。今夏「矢沢あい展」が全国巡回するのも話題だ。



PARIS MEN'S COLLECTION

2023 Spring & Summer

パリは熱く燃えていた！

ヨーロッパのファッションウィークはほぼ元通りの形に戻ったようだ。2023年春夏のパリ・メンズ・ファッションウィークに参加したのは85ブランド。コロナ前と比べると席数を絞ったショーが増えたものの、会場はどこも満員御礼、というか密！街中はもちろん、メトロでもマスクをしている人は少数派で街もファッションウィークもアフターコロナの雰囲気が出ていた。

最重要トレンドとして浮上したのはデニム。デニムをテラードスーツのようにセットアップで提案したり、バギーデニムや転写プリントと組み合わせたデニムなどが、多くのメゾンで提案されていた。なかでも白眉だったのが、グレン・マーティンスの「Y/プロジェクト」。ダブルウエスト、転写、ひねりなどの技を駆使して、デニムの新たな可能性を提示した。

メンズ期間中では初のショーとなった「マ

リン・セル」は、パリ郊外の陸上競技場の400mトラックを使った大規模なショーを開催した。ゲストはファッション業界人だけではなく、1000枚のパスをオンラインで配布。多くの観客がマリン・セルに身を包み会場には無言のわくわくがこだましていた。競技にも通用しそうなスポーツウェア、アップサイクルデニムで作られたボディーコンシャスドレス、同じく古着のスカーフから作られたドレスなどに身を包んだモデルは、マリン・セルのチームの面々や友人のアーティスト、アスリートたち。体型も年齢もバラバラだが、流行りだからフランスサイズモデルを使うようなメゾンとは違うリアリティーがそこにあった。

リアリティーと言えば、「ダブルット」が描いた世界は現実的ではなかったのかもしれない。体型を選ばないブリーツドレス、転写によるトロンプリュ、さらに進化したジャミラルックなど、このブランドらしい匠と笑いが融合したショーの最中、井野将之は晴天の初夏のパリに（人口の雪を降らせた。「ありえないことが起きる今の時代に、ありえないファッションで奇跡を起こせると信じたかった」と井野。今シーズンのパリでもっとも純真で力強い反戦表明だと解釈した。

クリエイティブ面での個人的ベストだったのが「ロエベ」。白い坂を降りてくるモデルの靴やデニムには、何やら草のようなものが生えている。この衝撃的な衣服は、アーティストのパウラ・ウラルギ・エスカローナとの協業で、実際に布帛の上に植物を生やしているのだという。この「不自然な自然」の一方で、マスクやコートには自然を映す液晶画面が貼り付けられている。自然と人工物の融合というテーマは、まさに今の人間が突きつけられている大きな課題。ジョン・サン・アンダーソンのシニカルな視点とクリエイションのキレを感じた印象深いショーだった。

文／ファッションジャーナリスト
増田 海治郎

YUIMA NAKAZATO

©Luca Tombolini



FENDI



MAISON MARGIELA

©Britt Lloyd for Maison Margiela



CHANEL

©CHANEL



PACO RABANNE



PARIS HAUTE COUTURE COLLECTION

2022-23 fall & winter

デジタルを超えた
リアルコレクションで
メゾンの真髄をアピールする
クチュールコレクション

7月3〜7日、22・23年秋冬オートクチュールコレクションが開催され、1月に続きパリ取材に出かけました。1月は8日間のパリ滞在後、PCR検査で陰性にも拘わらず東京で7日間宿泊施設での隔離が要求された時期です。東京から取材に向いたジャーナリストは1人だけ。8日間の取材で7日間の隔離！それでもパリでリアルにシヨを見て取材できた充実感を味わうことができました。今シーズンは隔離や出発前の陰性証明書の必要もなく、気持ちも軽くパリへ。リアルシヨも増えたのですが、マスクの義務もなく明らかに陽性者の人数も増えていました。もうパリでは風邪のようにコロナと寄り添うことが日常となり、その中で人生や生活の楽しみを謳歌し始めています。

クチュールが始まる前日、ジュリアン・ドッセーナがデザインする「パコラバヌ」がいち早く23年春夏コレクションのランウェイを披露しました。ブランドのアイコンであるシルバーマタリックは控えめに、オレンジ、パイオレット、グリーンと鮮やかな色を載せたレースとPVCを切り替えたルックが新鮮です。ランジェリールックにはチェーンを巻いたバイカーブーツ、頭にはメタルアイレットのスカーフを巻きフェミニンな着こなし。チュールとメタルを組み合わせたポリウムスカートやメタルフリンジのドレスなど今までにない軽やかなアイテムが登場しました。

「シャネル」はプロ・ニユの森の馬術練習場でシヨを行いました。会場にはグラフィカルなストライプや階段が設えられています。ファンシーツイードのルックは丸い肩のジャケットにライインのロングスカートを合わせています。このシルエットは1930年代をイメージしたものの、シヨの後半に登場した刺しゅうを施した黒のビュステイェドレには1932年にガブリエル・シャネルがデザインしたダイヤモンドジュエリーのネックレスが添えられました。ヘリテージを大切にしながらモダンなコレクションです。

「メゾンマルジェラ」のクチュール「アーティザナル」がリアルシヨの会場に選んだのは劇場です。数シーズン、デジタルで発表していたコレクションは映画のようにストーリー性のあるものでした。今シーズンは「シネマ・インフェルノ」と題した物語を舞台上のモデルたちがセリフを言いながら演じるという趣向です。チュチュドレスにはスパンコールの小さなバックやパンプスを合わせています。レットロなイメージですが、手技を重ねたドレスはブーツを合わせてリアルに着たいアイテムです。量感のあるテントライインのコートのパリエーションも並びました。

「フェンディ」のコレクションはテララーリングのパンツスーツからスタート。アーティスティックディレクター、キム・ジョンズらしいマスキュリン仕立てのしなやかなルックです。続いて京友禅をアシメトリリーにパッチワークしたAラインドレスが目を引きまします。「京都、パリ、ローマ」を意識したというコレクションは、伝統的な生地やクチュール技によるハイブリッドで繊細なドレスに仕上がっています。

「ユイマナカザト」のインビテーションには「BLUE」という文字が書かれていました。会場に入ると二面、深海を思わせるブルーにペインティングされたオブジェが置かれています。コレクションはブルーのグラデーションのチュールを何枚も重ねたドレスやドレープのコートが登場しました。アシメトリリーの生成りの服のハンドペイントはブランドらしさを感じる温もりと強さが残ります。

萩原輝美の ワンポイント レッスン

フィジカルなコレクション発表が増えたオートクチュール。少しずつ非日常を楽しめる着飾る服が増えていますが、リアルな着こなしができるのが特徴です。この秋はエレガントな服にカジュアルなブーツを合わせて街へ飛び出したいですね。

DESIGNER'S INTERVIEW

Adeline Andre

Photo : Ayumi Shino



アドリーヌ・アンドレはスコットランドをルーツを持つフランス人デザイナーです。いくつかのメゾンでキャリアを積んだ後、1995年7月「ヌーベルクチュール」と名付けて自身のコレクションを発表。97年にはオートクチュール協会の招待を受け、正式スケジュールのデザイナーとして年に一度、7月に新作コレクションを発表しています。アドリーヌ・アンドレのクチュールショーを初めて見たときは衝撃的でした。シンプルなカッティングだけで見せるミニリズム。その美しさは新鮮でした。当時はガリアーノやマックイーンの誇張した装飾ドレスがクチュールを先導している時代だったので。そのミニリズムの世界をベースとして今も新しい作品を作り続けています。新作コレクションの発表直後、光と緑に囲まれた裏庭のパーティー会場で話を聞きました。

Q..アンドレさんの服には「切」、装飾がありませんね。

A..はい、それがブランドの特徴です。

Q..プレタポルテではなく、クチュールで発表する理由は？

A..クチュールの服は顧客の依頼によって、その人のためだけに作るテイラーメイドです。「クリエーション」「テイラーリング」「オーダーメイド」のこの3つの柱が私の作るクチュール服です。パーソナルな服を作ることに生きがいを感じています。そして私に「装飾」は必要ないのです。

Q..アンドレさんの服は「静」を感じますが、女性の「動」についてはどう考えていらしゃいますか？

A..カッティングはシンプルですが生地はハイアス使いが多く、身体のムーブに寄り添う服に仕上がっています。

Q..パレエ団のコスチュームもデザインしているらしいですね。

A..はい、まさにパレリーナの衣装はカッティングの機能美と素材のフィットインク感が重要です。

Q..日本製の生地も好んで使われているとか。

A..日本の生地は職人技で繊細でありながらモダンなものが多い。最近デザインした舞台衣装ではウルトラライトで透け感のある生地を使用しました。今回のコレクションでは薄手のデニムをたくさん使っています。ちりめんのドライなタッチも大好きです。

Q..日本にいらしたことはありますか？

A..いえ、残念ながら一度もないのです。

きっかけがあつたらすぐにも行きたいです！

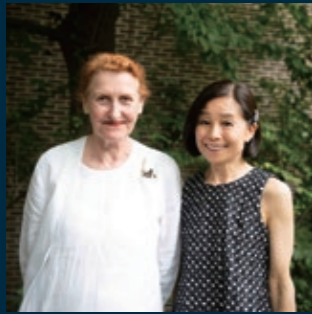
Q..デザイナーを目指す若い世代に向けてメッセージはありますか？

A..クリエーティブな感性は学校では学べません。ただそれを服に作り上げるテクニックは学べます。若いときは、たくさん服に触れ、テクニックを習得してください。それが後にクリエーションの核になると思います。

コレクションは、アトリエの1階にあるギャラリーで昔もなくモデルが静かに歩き始めました。前から見るとアシメトリーのドレスに見え、バックスタイルはパンツラインになるというコンビネーションは美しい。1981年に発表した3マンシュ(3つの袖)は長袖のローブに付いている半身のノースリーブを重ね着るアイテムで、今シーズンも多く登場しました。どの作品もボディの動きによって流れるようなドレープが特徴的です。自分らしいデザインの服を顧客のために丁寧に作る。今、着継いでゆくことが大切な時代にアンドレさんのものの作りの姿勢にほっとさせられました。

インタビューを終えて

コレクション、インタビューを行ったのはアドレさんのアトリエがある「ラ・ルッシュユ」と言う1904年に芸術家たちのための家として建てられた有名な場所です。素敵な空間で公私共にパートナーの主人とブランドを続けて27年目。アトリエにいるブランドのカッティングの技を担う日本人スタッフの存在も大きいと言う。趣味は水泳。自然体で作るアンドレさんの服はこれからも顧客に愛されることでしょう。



DESIGNER

Adeline Andre アドリーヌアンドレ

1970年 パリのエコール・サンディカを卒業後、「クリスチャンディオール」のメゾンでマルク・ボアンのクチュールラインのアシスタントとなる。
1981年 フリーランスとして活動。3マンシュのデザインを発表。
1995年 「ヌーベルクチュール」としてコレクションを発表。
1997年 クチュール協会に招待デザイナーとして選ばれ、毎年7月にコレクションを発表している。

Instagram: @adelineandreofficial

TEXT

萩原 輝美 Terumi Hagiwara

毎シーズン、ミラノ、パリなど世界のデザイナーズコレクション、パリ・オートクチュールコレクションを取材。ファッション雑誌に記事、コラムを寄稿。専門学校、各種セミナー講師。エレガンスをリアルに落とし込むファッション提案に定評がある。ブランド「ten. (テン)」のプロデュースも手がける。

Instagram: @hagiwaraterumi, @ten_official

2022-23
FW
HAUTE
COUTURE
COLLECTION





デザイン・モデル
加藤 琴音さん
サポート
伊勢 叶さん

テーマ：絢爛

きらびやかで美しいものを表現しようと思いましたが、豪華な模様や色を使って、和服テイストにデザインしました。帯の骸骨は絵の具で描きます。できるだけデザイン画に忠実に表現したいと思っています。



美術教師になりたいという加藤さん、イラストレーターを目指す伊勢さん、2人とも絵を描くのが大好き。その楽しさを人に伝えたり、人を笑顔にしたいという夢を持っているそうだ。



テーマ：ito

人と人を繋げたいという思いを表現しました。素材は水引きを使い、パーツに分けて制作していきます。かぼちゃパンツにボリュームを持たせ、メイクは華やかにキラキラ明るめに、オーガンジーでフワフワ感を出す、など全体のバランスも考えています。



自分の描いた絵が生きているように動かせることが魅力でアニメーターを目指す石川さんは、観察眼を養いリアルな動きを追求したい。美容系の仕事に就きたい浦崎さんは、自分がかわいいものやカッコいいものに助けられているので人にも可愛くかっこよくなって自信をつけて欲しいそうだ。



デザイン
林 真穂さん
サポート
江川 菜那さん
モデル
三木 美弥さん

テーマ：Complex

人それぞれが持つコンプレックス。嫌いなところを美しく見せよう、好きなものを詰め込もうとデザインしました。布をくしゃくしゃにしてみたり合わせていきます。細かく地味な作業は時間との闘いになると思います。服を作るのも初めて、それを披露するなんてとても緊張しています。



2人ともイラストレーターを目指しているそうだが、ファッションの視野を広げたいという林さん、自分の「着たい!!」を貫くという江川さん、それぞれの夢を膨らませて制作に打ち込んでいる。

5点も入選、夏休み返上です！
富山第一高等学校

毎年ファッション甲子園に参加し過去に優勝経験もある強豪校で、昨年は審査員特別賞を受賞しているが、今年はなんと5チーム入選という快挙！しかも1チームは1年生。どんな服飾の勉強をしているのかと思いきや、挑戦しているのは美術コースのみなさん。美術コースは1年次で絵画(油彩画)・デザイン(イラストレーション)を学び、2年次から絵画・イラストの2分野から自分のやりたいことを専攻する。デザインという視点からファッションにチャレンジ。縫製などの技術面は家庭科の先生にアドバイスをもらって制作するのだそう。入選した5点の作品は、デザインコンセプトや構成、素材など、それぞれ個性的な作品で、どんな立体作品に仕上がるのか最終審査会が楽しんだ。



テーマ：シンオドシング

獅子舞とシンオドシを組み合わせて近未来型の伝統文化を表現しました。獅子舞が涙を流しているのは獅子「脅し」、舌を出しているのは仏教用語の鐘の音を出す「舌(ぜつ)」を表しました。伝統を人と人との言葉で受け継いでいくという思いを込めました。



将来は庭師になりたいという吉田さんは、赤いスカジャンに憧れているとか。ファッション甲子園を機にファッションに興味を持ちたいと言う。モデルをつとめる矢後さんは、デザインを形にできるのは貴重な経験、予定がカツカツだけど夏休み返上で頑張る！と話してくれた。



デザイン
仙田 悠貴さん
サポート
和倉 美弥さん
モデル
三木 美弥さん

テーマ：Teenager

最近の若者をイメージしてデザイン。やりたいことや目標を持っているのに、現実には殺にこもってそれを出そうとしない若者を表現しました。コスプレ専用のCOSボードを使って、硬いけど柔らかい感じを出そうと思っています。先輩の姿を見ながらチャレンジしています。



イラストレーターになりたいという1年生の仙田さん、自分に似合う服に限られると思っていて、みんなどこからファッションの情報を取り入れているのか気になっているそう。この挑戦をきっかけにファッションに興味を持ってくれたようだ。

今年の夏も熱い！！

ファッション甲子園に挑戦

高校生のページ第35弾は、「ファッション甲子園」最終審査に臨む3校を取材しました。

真夏に開催される全国高等学校ファッションデザイン選手権大会、通称「ファッション甲子園」は、服飾系の高校に限らず日本中の高校生が毎年熱い闘いを繰り広げている。昨年はコロナの影響でライブ配信の最終審査会だったが、第21回となる今年は青森県弘前市での開催が決定。5月20日に第一次審査が行われ、全国33都道府県83校1224チーム2108点のデザイン画の応募の中から、33作品(18都道府県21校33点)の入選が決まった。入選チームは8月28日の最終審査会に向けて制作中。結果は次号掲載の予定、乞うご期待。



和紙で目指す、今年こそ入賞！

今泉学園今泉女子専門学校高等課程

今泉女子専門学校は福島県郡山市にある創立102年の服飾専門学校で、その高等課程では服飾の専門教科を中心に、専門性を深め個性を伸ばした学びが続いている。「ファッション学」の授業で毎年ファッション甲子園に応募しているそうだ。今年こそはと入賞を目標に、2年生チームが挑戦。デザインは穂積さん、モデルも自身がつとめる。今回サポートとして参加する渡邊さんも、作品がより良いものになるよう協力して進めていきたいと意欲を見せてくれた。



サポート
渡邊 愛理さん
デザイン・モデル
穂積 真緒さん

テーマ：ムラサキハナナ

ファッション甲子園は毎年夏に行われるので、夏をイメージし、夏に合う瑞々しさをムラサキハナナ(オオアサセイトウ)で表現しデザインしました。素材は、福島の特産品である和紙を使用し、布では表現できない立体感や風合いを表現したいと思っています。

トワフルマの花の配置を接計



和紙を染めて花作り

小さい頃から服に興味があり将来は服飾関係の仕事につきたいと思ってる穂積さんは、「個性を活かすことによって自分に自信が持てるようになるし、ファッションによって話題も膨らむ」と思っているそう。渡邊さんは、小さい頃ファッション雑誌を手にとってからファッションに興味を持ち、中2から本格的に服飾関係の仕事に就きたいと考え始めてこの学校に入学したのだそう。「ファッションは自分を表現できるものとして大きな力がある、これからいろいろなファッションが生まれていくとおもしろいと思う」と話してくれた。

念願の入選！初めて弘前へ進出します！

栃木県立大田原女子高等学校

被服部の活動として毎年ファッション甲子園に応募してきたものの、なかなか入選ならず、「ついに私の夢を叶えてくれた」とおっしゃる顧問の津久井久美子先生によると、部員数が激減した被服部を復活させた2人は、情熱があつて芯が強く何事にも負けない強さを持っているとか。弘前の最終審査会に臨めることを2人と共にとても喜んでた。被服室はこの夏休み期間、ファッション甲子園の1週間後に文化祭ファッションショーを控える「被服部の部屋」と化しているそうだ。どちらも悔いのないよう力を尽くしてほしい。



デザイン・モデル
相馬 杏璃さん
サポート
三本木 陽芽さん

テーマ：Design

美術の授業で平面構成を学んだ時に、これを服のデザインにできないかと思いつきました。デザイン画はインパクトを狙って黒い紙に発色が鮮やかな不透明インクの「ボスカ」で描きました。平面構成のデザインを立体にする難しさに試行錯誤しています。きれいな色の生地は、東京の日暮里まで先生と3人で探しに行きました。



色のパーツを組み立てていきます

将来はファッションに関わる仕事ができたいと考えている相馬さんは、小さい頃、ある本を読んで「裁縫」に興味を持ったのだとか。それからミシンも買ってもらったそう。被服部で服作りを経験し、これからもっと専門的に学びたいので服飾の専門学校に進学したいと話してくれた。被服部と水泳部かけもち文武両道の三本木さんは、高校教師になる夢を持っている。今は私服を着る機会が少ないのでファッションについてあまり考えていないけれど、これからのいろいろ勉強していきたいと思っているそうだ。



襟川クロの シネモード

映画パーソナリティー襟川クロさんの連載企画、第44弾。
ストーリー批評は他にまかせて、とにかくファッションに注目! な作品を紹介します。

襟川クロ
Kuro Erikawa

年間600本近い作品を見て、ラジオ、TV、雑誌、会見やイベントの司会にインタビューと映画ベッタリの人生を送る日々。犬が出てくると評価が甘くなる・・・そんな襟川クロですが、どうぞよろしく。

Zola ゾラ

SNS、フェイスブック、YouTubeなど個人発信のメディアが大人気。そこで今回は、自らの体験をツイッターに投稿したら大ブレイクして映画化されちゃったんですけどぉ〜! というウソのようなホントの実話「Zola」です。デトロイトのウェイトレス、ゾラは時々ストリップ・ダンサーもやってるしっかり者のオシャレ・ギャル。初対面のステファニからいきなり「フロリダへ週末出稼ぎツアーしない?」と誘われ同行することに。ここからの48時間が「148のツイート」をもとに展開するリアル旅なのですが、エピソードのひとつひとつがスリリングでセクシーで、あきれほどオバカ(失礼!)で強烈。でもファッションブルでカッコいい。監督は「miumiu」の女性監督シリーズに抜てきされたジャンクサ・ブラヴォー。勢いのある若手ね。ゾラ役のテイラー・ペイジは11歳からプロのダンサーとして活躍しているのでボールダンスも官能系もおまかせです。「姿」が健康的ゆえどんなにお肌を出そうがカワイ過ぎ! ヒロイン二人の衣装がまったく被らないのもキャラ表現のなせる技ね。ノーテンキに見えて実は人種差別やセクハラ、男尊女卑など社会派メッセージもチラリ。ケイティ・ペリーやカニエ・ウェストもハマったホットでハチャメチャなリアルSNS物語。きっかけは今時でも骨太(?)の青春ドラマです。



8月26日(金)より、新宿ピカデリー、渋谷ホワイトシネキントほか全国ロードショー
© 2021 Bird of Paradise. All Rights Reserved

いいね! ★★

スワンソング

スワンソング—白鳥がこの世を去る際に最も美しい声で歌うとされる伝説から生まれた言葉。人間に置き換えると、アートやスキルひと筋に生きてきたプロが、人生最後に残す作品のこと。これも、実話です。老人ホームでひっそり暮らすバットは、かつてヘアメイクドレッサーとして大人気のサロンのオーナー。最愛のパートナーをエイズで亡くし、夢も楽しみも封印してきたある日。かつての顧客リタの弁護士が現れ、「死亡粧はバットに」「ギャラは2万5千ドル!」と遺言を伝えたもんで、驚くの逃げ出したいの、でもお金は欲しいと頭の中グチャグチャです。結局、入居中の老女の髪を美しくセットして「腕に覚えあり!」と引き受けることに。でもホームは外出禁止。メイク道具も着替えも運び出せない・・・さてどうする? どうなる? 主演のウド・キアーは個性派の代表。胸を張って頑固なゲイに成りきっているぶん、ワガママ言おうと文句言おうとずっと応援しちゃいます。ファッションもかなりのこだわり。ゴージャスなドラマクイーン姿でパフォーマンスしたり、よれよれジャージの上下でホームを抜け出し街をブラブラ。かと思うとタダでいろいろゲットしてしまうちゃっかりモンのバット。でもちゃんと過去の時間と繋がりがあってのことだから、おねだり上手も気持ちいい。そして後半。勝負服とも言えるミントグリーンのスーツ。このシーンのエピソードは最も感動的です。人も街も永遠ではないけれど思い出は昔のまま。愛ってステキ!



8月26日(金)より、シネスイッチ銀座、シネマート新宿、アップリンク吉祥寺ほか全国順次公開
© 2021 Swan Song Film LLC

一食抜いても是非! ★★★



青野賢一の オトノヒキダシ

音楽はネットでタダで聞くものでしょ! という時代に、少しでも多くの人が作品を聴いてみたい、手元に置いておきたいと思えるように、毎回1アーティストにフォーカスしてその魅力に迫ります。

青野賢一
Kenichi Aono

セレクトショップBEAMSにて、プレス、クリエイティブディレクターや音楽部門(BEAMS RECORDS)のディレクターを務め、2021年に独立。ライター、DJ、選曲家として活動する。



Haim(ハイム): エスティ(ボーカル、ベース)、ダニエル(ボーカル、リードギター)、アラナ(ボーカル、リズムギター、キーボード、パーカッション)の三姉妹バンド。2013年のデビュー・アルバム「Days Are Gone」で全英1位、全米6位を獲得し世界に存在感を示した。以後、ロック、フォーク、'90s R&Bなどの要素を独自に融合したサウンドで人気を博している。

『リコリス・ピザ』を観たならハイムの音楽もぜひ

2022年7月1日に公開されたポール・トーマス・アンダーソン監督の『リコリス・ピザ』。1973年のカリフォルニア州サンフェルナンド・バレーを舞台に、15歳の男子高校生と25歳の女性が意地を張り合いながらも互いに惹かれてゆく様子を描いたこの作品は、ファッションをはじめとするパーフェクトな視覚表現とそれを彩る音楽で大きな話題となった快作である。この『リコリス・ピザ』で25歳の女性主人公を演じたのが、今回ご紹介するバンド、ハイムの一員であるアラナ・ハイムだ。ハイムは映画の舞台であるサンフェルナンド・バレー出身の三姉妹によるバンドでアラナは三女。ちなみにポール・トーマス・アンダーソンも同郷の出身で、映画にはハイム全員が姉妹役で出演しているばかりか、彼女たちの両親も両親役で登場している。ロックを基調とした疾走感と爽やかさのあるサウンドに、時折ほろ苦さやメロウネスが顔を覗かせる——ハイムの音楽を言葉で説明するところこういったところ

だろうか。わたしは2013年のデビュー作『Days Are Gone』から聴いてきたが、リリースを重ねるごとに奥行と強度が増している印象だ。現時点での最新シングル「Lost Track」のミュージック・ビデオはポール・トーマス・アンダーソンが務めている。ポール・トーマス・アンダーソンはこれまでもハイムのミュージック・ビデオを手がけており、「Lost Track」は9作目。アラナは『リコリス・ピザ』が映画デビュー作となったわけだが、この起用について監督は「ハイムのミュージック・ビデオを共に作ってきたことがヒントになりましたね」と語っている(『リコリス・ピザ』劇場パンフレット「ポール・トーマス・アンダーソン監督インタビュー」)。もし『リコリス・ピザ』は観たけれどハイムの音楽は聴いたことがないという方がおられたら、まずはミュージック・ビデオから入ってみてほしい。そして興味が湧いたらアルバムにもトライしてはいかがだろうか。夏のあいだなら2019年リリースのシングル曲「Summer Girl」もおすすめだ。

TOPIC 2 / 見逃せない注目の展覧会

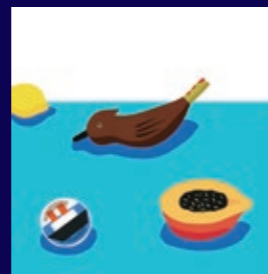


アンディ・ウォーホル・キョウト / ANDY WARHOL KYOTO

「アンディ・ウォーホル・キョウト」では、京都とウォーホルの関係に目を向け、そのゆかりを示す貴重なスケッチなど、若き日のアンディ・ウォーホルの心を捉えた京都の姿が展示されている。アーティストとして活躍する前のイラストレーター時代の作品から最晩年の作品まで、全5章に代表的な作品が配置され、時代背景や作品の主題、コンセプトなど様々な視点から楽しめる構成となっている。

2022年9月17日(土)～2023年2月12日(日) 休館日:月曜日(但し祝日の場合は開館)、12月28日～1月2日 開館時間:10:00～18:00(最終入館は17:30まで) 入館料:《当日券》一般平日2000円/大・高1400円/中・小800円 会場:京都市京セラ美術館 新館「東山キューブ」

※変更の可能性もありますので、ホームページで必ずチェックしてください。



イラストレーター 安西水丸展

1970年代より小説、漫画、絵本、エッセイ、広告、装丁、翻訳など枠にとらわれることなく様々な分野を横断して活躍したイラストレーター安西水丸(1942-2014)。本展では千葉県ゆかりの作家として、安西の幼少期から晩年に至るまでの多岐にわたる仕事やイラストレーション作品を、原画と関連資料合わせて500点以上によって紹介。

安西水丸《口笛のまこえり》1985年

2022年8月6日(土)～9月25日(日) 休館日:月曜日(但し9月19日(月)は祝日のため開館、翌20日(火)は休館) 開館時間:10:00～18:00(最終入館は17:30まで) 入場料:一般800円/大・高600円/中・小400円 会場:佐倉市立美術館

TOPIC 1 / 編集スタッフいち押し本を紹介!



しんびんよりもずっといい
リサイクルのおはなし

「バタゴニア」初の絵本。捨てられた漁網に絡まったアシカに出会うふたりのチリの子どものたちの足跡をたどるストーリー。海の友だちを自由にしてあげたふたりは、この網をどうしたらいいか考える。日本語とスペイン語で書かれており、放棄された漁網がもたらす危害についての物語を通して、海洋汚染問題へと子どもたちの目を開いていく。

作:ロバート・ブローダー 絵:レイク・バックリー 発行所:バタゴニア 1650円



正統派スーツの描き方

カッコいいスーツが描きたい!スーツのドレスコードが知りたい!スーツごとの組み合わせ方や細部の構造、小物は?スーツを着て動くときワウはどう入る?など、スーツをこよなく愛する著者が、正統派のスーツについて詳しく解説。絵を描く人の資料としてはもちろん、純粹にスーツについて知りたい人も幅広く楽しめる1冊。

著:ユン・イェジュ 翻訳:金智惠 監修:福地宏子 発行所:マール社 2020年

INFORMATION
AND
REVIEW

ファッションカ

FASHION-RYOKU

August 2022
2022年8月19日発行

学校法人杉野学園 出版部

EDITOR IN CHIEF
久保雅裕

EDITORIAL STAFF
木村千晶
網野詩子
福地宏子
土屋さくら

DESIGNER
中島恵利

※本誌の内容に関するお問い合わせは
下記までお願いします

〒141-0021
東京都品川区上大崎4-6-19
TEL:03-3491-8152
E-mail:publish@sugino.ac.jp
URL:https://www.sugino.ac.jp

COVER

Photography: Yam Daria
Set designer: Yuta Shimoda
Model: Alexander Fujita
Direction/Styling/Hair & Make-up:
Larprojpaiboon Phoovadej (ablanpage.)